

來議會の運命如何 内面の政情極めて複雑

成るべくは解散を避けたい

來議會が解散となるや否やは政事に依つて決せられるのであるがざるを以て次議會に臨ますして三派とも各様の觀測を下して自黨に有利角の好機を逸し取返しのつかぬ内閣瓦解の餘儀なきに至らば折る如く吹聴して居る併し内面破目陷入する虞があるので是非來の政情は極めて複雑で來議會が果議會に於て解散の機會を作り解して如何なる歸結に到達するか散を断行すべしとの論が

は容易に斷定を下し難きものが

ある即ち憲政側では政本關係は方には政本兩派は表面強い事を

今日以上に進まず假令一部の希云つて居ても實際政友會の行動く頗る見物である

望が政本の合同にあつても政策本問題に想到すれば兩派は到底一

致の行動を探り得ず却て憲政會と行動を共にせざるを得ざるに至るてあらうと樂觀しつゝある

が果して然らば無論議會の解散を免れ無事來議會の閉會を告げべき苦である併し本黨内部の得べき苦である併し本黨内部の

情勢よりすれば必ずしも政策本位で終始すべしと

速斷しう能はざるものがあ

る殊に研究會勃興並に交友俱樂部の現内閣反対、本政提携の策動は甚だ輕視すべからざるものあり萬一大勢反政府に傾くに於ては議會勢頭直に常任委員の選舉で政本、憲政のいがみ合ひ長が政友會出身であり議事の進行は容易であらざるべく議會の解散は避くべからざる運命となりと雖も

内閣に觸まれて來たのでは

反対黨内閣の下に行はれ苛烈なる干涉に觸まれて來たのでは

見たいとの壯があり殊に手盛りの普選第一回の總選舉は自黨として居る而も憲政會とし

ては苦節十年漸く今日あるを得た

たりと雖も

大限内閣以來常に選舉が

反對黨内閣の下に行はれ苛烈なる干涉に觸まれて來たのでは

見たいとの壯があり殊に手盛りの普選第一回の總選舉は自黨として居る而も憲政會とし

ては苦節十年漸く今日あるを得た

たりと雖も

非自黨内閣の下に總選舉を行つ

るの村田正太學士、同技師城井尚義博士は歐米先進國に一步先ん

東京の赤坂田町の料理屋に居た。

當時は歐米先進國に一步先ん

東京の赤坂田町の料理屋に居

